

静岡県立総合病院及び機構本部清掃等業務仕様書

平成30年10月1日から平成33年9月30日までの期間の静岡県立総合病院及び機構本部における清掃業務は、契約書に定めるもののほか、本仕様書、業務仕様書細則、清掃基準表、乙の作成した企画提案書（標準作業書、業務実施計画書等に関連文書を含む。）等の付帯文書（以下、「仕様書等」という。）に基づき実施する。

なお、仕様書等に記載のない事項についても建物の管理上及び美観上必要と認められる軽微な作業については委託額の範囲内で実施すること。

1 目的

この仕様書は、静岡県立総合病院及び機構本部（以下「甲」という。）の美観及び衛生的な状態を常時維持し、院内感染及び事故防止等を図ることにより、利用者及び当院職員等の快適性・安全性を良好な状態に保つことができるよう、必要な事項を定めるものである。

2 施行区域及び面積

施行区域及び面積は、別紙のとおりとする（清掃基準表参照）。

3 業務内容

清掃業務は、次の各業務とする。

(1) 日常清掃業務

日常清掃業務は、仕様書等に基づき、日々実施する清掃及び随時・巡回清掃班が院内を巡回して行う清掃のことをいう。感染症ならびに感染症の疑いのある患者の病室の退室後消毒、清掃もこれに含まれる。

（感染病室殺菌消毒件数 875件 / 平成29年度実績）

(2) 定期清掃業務

定期清掃業務は、仕様書等に基づき、月あるいは年で定められた回数実施する清掃業務をいう。

(3) 窓ガラス・網戸等清掃業務

窓ガラス・網戸等清掃業務は、仕様書等に基づき、窓ガラス、網戸、サッシ及びブラインドの清掃を行うことをいう。

(4) 廃棄物分別収集業務

廃棄物分別収集業務は、仕様書等に基づき、ごみ箱へのごみ袋のセット及び補充、病棟等から排出される廃棄物を所定の保管場所まで運搬するとともに、分別作業を行うことをいう。

(5) 防虫・防鼠業務

防虫・防鼠業務は、仕様書等に基づき、院内の害虫防除及び鼠防除を行うことをいう。

(6) 清潔区域殺菌消毒清掃業務

清掃区域殺菌消毒清掃業務は、仕様書等に基づき、日常清掃業務とは別に定められた方法で清掃を行うことをいう。

(7) 手術室清掃業務

手術室清掃業務は、仕様書等に基づき、指定した数の人員を常置し手術室の清掃を行

うことをいう。

(8) 蛍光灯具清掃業務

蛍光灯具清掃業務は、仕様書等に基づき、蛍光灯具の清掃を行うことをいう。

(9) 当直室寝具類整備業務

休診日に当直用の寝具類（28組）の整備（ベッドメイキング等）及び片づけをすることをいう（実施場所は清掃基準表参照）。なお、寝具類は病院にて用意する。

4 設備等の貸与

契約書第19条に規定する貸与施設及び物品は、当院においては下表のとおりとする。

施設	別紙「施設貸与」記載箇所		
備品	乾燥機 2台	廃棄物保管運搬カート	10台

5 支給品

契約書第17条に規定する特に定める甲の負担に係る物品は下表のとおりとする。

感染防護用手袋（ディスポ用品に限る。）	6 B病棟清掃従事者用のマスク
感染病室殺菌清掃時のディスポ防護用品	

6 その他

その他本仕様書に疑義が生じた場合は、法令等による他甲乙協議して定める。

なお甲は、乙の通勤用駐車場を用意しない。

清掃業務仕様書細則

1 基本事項

- ・原則として各階中央廊下等の共用部分はドライ方式で、病棟等はウェット方式で床面管理を行うこと。ただし、病院運営、清潔管理及び療養環境の点から影響がないと本院が認めた場合は、異なる管理方式での実施を認める。ただし、管理方式の変更による契約金額の変更は認めない。また、提案した管理方式で、十分な成果が上がらないと甲が認めた場合は、速やかに、指定方式に戻すこと。
- ・外来診療部門・検査部門・事務部門の日常清掃は執務時間外に実施すること。原則として診療開始前（～8:15）とするが、場所によっては、診療終了後（18:00～）の実施を認めることもあるので、病院担当者と協議すること。
- ・人工透析室の日常清掃は、原則使用開始前（～7:30）とすること。
- ・病棟の日常清掃は、面会者等を考慮して、原則として朝食終了後の午前中に清掃を実施すること。ただし、病棟の看護師長の下承があれば、この限りではない。また、病室の入室の際には一声かけてから入室するなど病室利用者への配慮を行うこと。
- ・トイレ清掃について、回数は清掃基準表の定めるとおりとし、清掃時間は次のとおりとする。（外来の第1回目の清掃は9:00までに終了、病棟は9:00～11:00と14:00～16:00を原則とする）。
- ・各館玄関風除室は8:00、本館中央階段は8:30までに第1回目の作業を完了させること。本・北館1, 2Fの中央廊下については、8:30までに作業を完了させること。
- ・休日清掃は病棟及び指定箇所について実施する（清掃基準表参照）。
- ・清掃実施後、不適切と認められる箇所があった場合、仕様書の定めに関わらず、速やかに再度清掃を実施すること。
- ・乙は清掃業務実施にあたり、使用する機械器具、材料、消耗品等について、あらかじめ甲に文書で提示し、甲の承認を得ること。
- ・入札時に提出した各種書類に定められた事項に従業員に徹底させ、院内感染対策に万全を期すこと。
- ・高度救命救急センター、4 M病棟、3 D病棟、3 G病棟については、清掃員を1日常駐させること。時間は原則7:00から16:00までとする。
- ・放射線管理区域の入退室には特に注意し、随時、現場責任者の指示に従う。
- ・清掃終了後の汚水等は、本館地下ドライエリアにおいて処理すること。また、モップについた埃、塵等の吸取作業についてはゴミ庫内で行うこと。
- ・清掃時以外の清掃カートについては別紙「清掃カート置場」内へ置くこと。休憩等で清掃箇所を離れる際なども同様の対応とし、病院業務に支障のないように留意すること。清掃業務終了後、すみやかに「清掃カート置場」へカートを移動すること。
- ・休日清掃（土日祝日年末年始等）においては、指定した箇所の清掃及びゴミ回収を行うこと。清掃内容はトイレ及びごみ回収を除き、平日と同じとする。トイレ清掃及びゴミ回収は1回行うこととする。
- ・清掃器具等による衝撃または湿気等で機械設備等を損傷、又はコードを脱落させることなどのないよう十分注意すること。
- ・清掃にあたり移動させた什器類は、作業後正確に元の位置に戻すこと。

- ・作業員が欠勤した場合には、必ず交替要員を派遣し作業に支障のないようにすること。
- ・やむ終えない事情により、予定された清掃が実施できなかった場合、契約担当者に報告の上、別途改めて清掃を実施すること。
- ・清掃員の作業方法について、個人差をなくすためマニュアルの作成や研修会の実施を行うとともに、管理監督者による確認を定期的の実施すること。

2 日常清掃業務

① 床面清掃

- ・床面等で汚れている箇所は、適正洗剤を含んだウェットモップで拭く等、適切な方法で部分的に清掃すること。特に血液、吐物、尿や便等体液が環境に付着した場合は、付着物を除去した後、0.2%次亜塩素酸ナトリウムで消毒すること
- ・金属等は腐食するため、10分後に水拭きをすること。
- ・病棟においては、少なくとも週1回、クリーンルーム用掃除機を用いて清掃を行い、ベッド下や各種ケーブル類に埃が溜まらないようにすること。
- ・エレベーターの床面は水絞りモップで拭く。溝のごみ等は適宜取り除くこと。
- ・正面玄関周りの石床については、適宜巡回し、ブラックマーク、ヒールマーク、固着物等を除去すること。

② カーペット・畳清掃

- ・業務用掃除機による吸塵作業を行う。

③ 壁面・扉・天井等清掃

- ・床面だけでなく、壁面や備品の上面等、立体的に清掃を実施する。
- ・天井、ドア上部、棧、壁面上部等の高所にあるゴミ・ホコリ等は、適切な方法で除塵し、必要に応じて布で拭き上げること。

④ 窓清掃

- ・窓の室内面（ガラス、サッシの低所部）は、日常清掃の中でも週2回程度清拭すること。
- ・窓台については、毎日、除塵を行うこと。扉、手すり及び機内の壁面の汚れは洗剤液を用いて拭く。
- ・操作盤等はから拭きする。

⑤ カーテンレール清掃

- ・V吊式については、週2回程度除塵すること。
- ・業務開始に先立ち、甲と打合せを行うこと。

⑥ 備品清掃

- ・公衆電話機や設置台を消毒液に浸した布で拭き、設置台上を整頓すること（週1回程度）。
- ・床頭台の上等、埃がたまりやすい場所は、常に除塵を心がけること。
- ・玄関等にあるマット類は毎日掃除機をかけ、清潔にすること。

⑦ 便所清掃

- ・清掃方式は乾式とする。
- ・便器等は内側の隠れた部分まで洗浄する。
- ・尿石付着部分は除去剤を使用する。汚物の処理等を行う。
- ・ウォッシュレットトイレは、ノズルの洗浄も行う。

- ・衛生陶器は、水又はアルカリ性洗剤で洗浄後、除菌清拭する。
- ・配管詰りの初期対応を実施する。ただし、2回スポイト作業を実施しても復旧しない場合は、庁舎管理受託事業者に引き継ぐ。

⑧ 浴室、シャワー室清掃

- ・適正洗剤を用い、ブラッシングとスポンジ掛を行い、十分にすすぐ。
- ・水あか・かびの発生を防ぐため、適宜漂白洗浄剤等で除菌するとともに、万一、カビ等が発生した場合は直ちに除去すること。6B病棟については、土曜日にも風呂場清掃を実施すること。
- ・排水溝からの臭気を予防するため、適宜対策を実施すること。

⑨ 給湯室清掃

- ・ラッシュ・バルブ等の金属部分は、から拭き又は洗剤液を使用して拭くこと。
- ・排水溝からの臭気を予防するため、適宜対策を実施すること。

⑩ 洗濯場清掃

- ・床面の掃き、排水溝・口周りの掃除、洗濯機本体の拭き清掃を行うこと。

⑪ 感染症室殺菌消毒

感染症ならびに感染症の疑いのある患者の病室の退室後消毒、清掃を次のとおり行う。

〈MRSA等多剤耐性菌〉

- ・ベッド及びマットレスは、環境クロスで清拭する。
- ・ベッド周囲のカーテンを外し、ビニール袋に入れ、口を締めて室外に出す。
- ・カーテンレール、壁及び窓等を環境クロスで清拭する。
- ・床は、専用のドライモップ又は閉鎖式掃除機で塵埃をとる。
- ・枕灯、床頭台、サイドテーブル、ドアのノブ、ロッカー、テレビ及び冷蔵庫を環境クロスで清拭する。
- ・洗面台及び水道蛇口は、洗浄後乾燥させ、環境クロスで清拭する。
- ・上記の業務終了後、ベッド周囲カーテンを取り付ける。

〈感染性胃腸炎等（ノロ、C.difficile等）〉

- ・ベッド周囲のカーテンを外し、ビニール袋に入れ、口を締めて室外に出す。
- ・カーテンレール、壁及び窓等を0.02%次亜塩素酸ナトリウムに浸したペーパータオルで清拭する。
- ・ベッドは、0.02%次亜塩素酸ナトリウムに浸したペーパータオルで清拭する。
- ・床は、0.02%次亜塩素酸ナトリウムに浸したペーパータオルで奥から一定方向に清拭する。
- ・枕灯、床頭台、サイドテーブル、ドアのノブ、ロッカー、テレビ及び冷蔵庫を0.02%次亜塩素酸ナトリウムに浸したペーパータオルで清拭する。
- ・洗面台及び水道蛇口は、洗浄後乾燥させ、0.02%次亜塩素酸ナトリウムに浸したペーパータオルで清拭する。
- ・上記の業務終了後、ベッド周囲のカーテンを取り付ける。

なお、上記業務において次の点に留意すること。

作業時は、ディスポガウンを着用し、ディスポ手袋及びマスクをつけること。

退室時は、ディスポガウン、手袋及びマスクを外し、ビニール袋に入れて口を締め、医療用廃棄物として捨てること。ディスポ手袋を外した後、必ず流水と石鹸で手洗を行う

こと。作業上必要な物品は事前に用意し、不用意な出入りをしないこと。

⑫ 外周及び駐車場清掃

- ・清掃範囲は全敷地とし、光庭、北館バルコニー及び周辺道路を含む。
- ・随時に病院外周及び駐車場管制装置の蜘蛛の巣を取り払うこと。
- ・落葉時期においては、敷地周辺道路の清掃頻度を高めること。
- ・各雨季前にバルコニー及び屋上にあるルーフドレインの清掃を実施すること。

⑬ 消耗品の補充・交換

- ・便所、流し等の水廻りの衛生消耗品(甲が支給するトイレットペーパー・ペーパータオル等)の補給を行う。
- ・ごみ箱のごみを回収した際には、必要に応じてポリ袋を交換する。

3 随時・巡回清掃業務

随時清掃	甲の指示に基づき、汚染やほこりが多いと判断した病室の退室清掃、剥離清掃、ワックスがけ、便所配管詰まりの初期対応、壁スポット清掃、その他指定する清掃を実施する。 病院担当者の指示に基づき、専任の者が開院日は8:00～9:00は2名、9:00～12:00は3名、13:00～17:00は5名、17:00～18:00は2名で実施する。閉院日は8:00～12:00は2名、13:00～17:00は3名で実施する。病院担当者から随時清掃の指示が特にない場合は、巡回清掃に従事する。実施日は毎日とする。
巡回清掃	開院日の8:30～12:00、13:00～16:30の間、常に院内を巡回し、部分的な汚れの除去、粗ごみ拾い、急な要請のあった清掃への対応等を行うこと。

4 定期清掃業務

① 床清掃

- ・指定した箇所はドライ方式で、その他の箇所はウェット方式で管理すること。(ウェット→ドライの移行は病院業務の支障にならないよう実施すること。)
- ・アルコール消毒剤の使用頻度が高い箇所(病棟内及び霊安室前廊下等)は、耐アルコールワックスを使用すること。
- ・ワックスの塗布回数は、実施間隔・床面状況を考慮して決定すること。また、基準表の実施回数は最低基準であるので、通常の使用状況でワックスの効果が薄れた場合、乙の責任において、再度、塗布すること。

② カーペット床清掃

- ・シミ抜きを行った後、適正洗剤を用いて汚れを除去すること。

③ 硬質床清掃

- ・実施方法は弾性床に準じる。
- ・洗浄後のワックス塗布は原則として実施しないが、状況により塗布する。

④ 床剥離清掃

- ・計画を定めて実施すること。
- ・剥離剤は床面の状況及び作業効率を考慮した最適なものを使用すること。

⑤ 壁際・隅部分等清掃

- ・ポリッシャーが使用できない箇所は手作業で清掃を行うこと。
- ・壁面・幅木は中性洗剤を浸した布で清拭すること。

⑥正面玄関清掃

- ・月1回程度、適正洗剤及び器具（パッド＋ブラシ併用のこと）を用いて洗浄作業を実施すること
- ・原則として洗浄後のワックス塗布は実施しない。

5 ドライ方式の作業周期

ドライ方式により床面を管理する部分の日常作業の標準周期は下記のとおりとし、床面の状態に応じて頻度を変更すること。

	右記以外	外来3, 5, 8 本館BF, 2F共通	外来1, 2, 4, 7 本北館1F共通
除塵	1/日＋巡回	1/日＋巡回	1/日＋巡回
スプレーバフ	1/週	2/週	3/週
スプレークリーニング	1/月	2/月	2/月

6 窓ガラス・網戸等清掃業務

実施箇所・日程については、2週間以上前に甲と協議し、了解を得ること。

① 窓ガラス・網戸清掃

- ・3ヵ月に1回の頻度で実施すること。
- ・適正洗剤を使用し、窓用スクイジー等で汚水を除去した後、タオルで清拭すること。
- ・ガラス周りのサッシを清拭すること。
- ・足場のない部分については、ゴンドラ等の用具を使用すること。安全第一とし、のりだし作業は行わないこと。

② サッシ清掃

- ・1年に1回の頻度で実施すること。
- ・除塵をし、適正洗剤を用いて洗浄すること。
- ・著しい汚れの場合は磨き洗いを行うこと。
- ・サッシ及び周囲を含む建具全体を清掃すること。

③ ブラインド

- ・塵をとり、水拭き又は適正な洗剤を用いて洗浄すること。

7 廃棄物分別収集業務

一般事項	<p>感染性廃棄物以外のごみは、「一般ごみ」、「プラスチック類」、「ビン」、「カン」、「ペットボトル」、「古紙等」の6つに区分して収集する。</p> <p>ごみ分別が不十分な場合は再分別をして、回収を行う。感染性廃棄物とその他の廃棄物は、それぞれ専用の運搬車を用いて搬送すること。ただし、最終搬出容器に保管した場合は混載を認める。</p> <p>感染性廃棄物をダンボールに詰める際には、専用の道具を使用すること。</p> <p>トイレの汚物入れについては内容を確認、汚染物（血液・膿等が付着しているおそれのあるもの）は感染性廃棄物として収集すること。</p> <p>ごみ容器・汚物入れが汚れている場合は、清拭すること。</p> <p>ごみ袋は一括して交付するので、セット・補充を行うこと</p> <p>感染病室のごみの収集は最後に行うこと。</p>
------	--

感染性 廃棄物	原則として診察日は午前 1 回（外来は診察開始前）、午後 1 回の計 2 回、休診日は午前 1 回、回収すること。（高度救命救急センター、3G については上記の限りではなく、回収BOXが満載にならぬよう随時回収を行うこと） 具体的な回収時間は、室管理者と協議して、決定すること。 最終の回収時間は17:30とすること。
放射線 治療後の 廃棄物	部署に備付けの鉛容器に記載されている日に中身を取り出し、感染性廃棄物用の段ボールに詰め、廃棄物保管庫まで運搬する。 廃棄物保管庫まで運搬後、他の感染性廃棄物と区別して 1 ヶ月間保管する。保管期限を過ぎた後、収集運搬業者に引き渡す。
病棟	病室内のゴミ箱の回収は 1 日 1 回午前中に行うこと。
湯沸室	茶殻等の回収は、1 日 1 回午前中に行うこと。

8 防虫・防鼠業務

(1) 実施数量及び回数

害虫防除	年 4 回 (5, 8, 11, 2月)	先端医学棟以外の全館（厨房及びパントリー以外）を対象に実施する。
	年 2 回 (8, 2月)	先端医学棟を対象に実施する。
	年12回（毎月）	厨房及びパントリーを対象に実施する。
鼠防除	年12回（毎月）	厨房及びパントリーを対象に実施する。

(2) 作業内容及び使用薬剤

ア 害虫防除

- ・害虫の生息場所に、薬剤の残留噴霧及び毒餌（ベイト剤）処理をする。
- ・有機燐系剤、ピレスロイド剤、エアゾール剤を使用する。

イ 鼠防除

- ・薬剤による処理（毒餌、忌避剤）及び器具による処理（粘着トラップ、捕獲器等）を行う。
- ・抗凝血性殺鼠剤（粉剤、固形、液体）、忌避剤（固形、液体）、粘着トラップを使用する。

ウ 共通事項

- ・使用薬剤等については、生息状況に最も適したものを使用すること。
- ・ME 機器及び給食設備等には十分注意して行うこと。
- ・害虫防除後は、効果判定を実施すること（詳細は協議の上決定する）。
- ・害虫、鼠の発生が著しく増加する等、不足の事態が発生した場合には上記の実施回数に関わらず防虫・防鼠業務に協力すること。

清潔区域殺菌消毒清掃業務仕様書

1 実施数量及び回数

別紙清掃基準表のとおりとする。

2 実施時間・曜日等

- ・薬剤部、中央材料室、アンギオ、手術室、ハイブリッド手術室については、休診日に実施すること。
- ・産科病棟については、原則として平日午前中に実施すること。

3 作業内容及び使用材料等

(1) 実施内容

A 各部署共通実施事項

天井 壁面	バキュームで埃を除去後、中度消毒薬を塗布した低発塵性クロスで清拭を行う。 ただし、石膏ボード等や木製の材質で、吸水性があり、シミや塗料剥離の可能性がある場合は、消毒薬での清拭は避ける。
器材	使用するバキュームは、微粒子フィルター内臓タイプとする。

B 各部署別特記事項

栄養調乳室	・各室に備付けの機材類は、調乳室という性格上、清拭はエタノールを使用すること。ただし、火気には十分注意すること。
薬剤無菌室	・無菌室内のクリーンベンチは、表面をエタノールで清拭する。
血管造影室	・造影室内の付帯設備は表面を清拭する
中央材料室	・既滅菌室内の滅菌物保管棚は表面を清拭する。 ・各種滅菌器、洗浄機（ジェットウォッシャー・超音波洗浄機・オートクレープガス滅菌機・ステラッド等）の表面を清拭する。
分娩室	・分娩室内の无影灯は清拭する。 ・消毒対象エリアの各室のシンクも清拭を実施する。
手術室	・手術室内の无影灯・手術台・スイッチ類・埋め込み棚の表面を清拭する。 ・水気を嫌うものを清拭する場合は、エタノールを使用すること。ただし、火気には十分注意すること。
ハイブリッド手術室	上記手術室特記事項に順ずる。
PETセンター ホットラボ室	・放射線管理区域であるので、事前にPETセンター担当者とよく協議をすること。

(2) 使用薬剤

使用薬剤については、主として下記の薬剤から決定し、使用濃度と合わせて事前に病院担当者に承認を得ること。

中度消毒薬	エタノール		
低度消毒薬	塩酸アルキルホリアミノエチルグリシン	第4級アンモニウム塩	アニオン系界面活性剤

手術室清掃業務実施要領

1 業務時間

手術室の清掃は平日の7時から22時までとする。

(ただし、ハイブリッド手術室については、17時までとする。)

2 業務内容

- ・手術室エリア（別紙「清掃基準表」手術室に区分けされる全室）の床清掃、ゴミの片付け及びゴミ箱の拭き掃除
- ・トイレ清掃（床掃除・トイレットペーパー補充・汚物処理）
- ・退出後の各オペ室（OP No. 1～22）のゴミの片付けと床清掃
※次の手術の入室に支障のない時間までに終了させること
- ・血液の付着した箇所の清掃・消毒（コード類、手術台含む）
- ・納品物品のダンボールの片付けと整理
- ・手洗い場の掃除（金曜日は滅菌水機の洗浄作業を含む）
- ・その他定期的にエリア内の見回りを行い、埃が落ちることの無いよう清潔を保つこと

3 配置人員について

手術室業務が円滑に運営されるため、次の要件をみたす人員を配置すること。左記にかかる教育、研修等は乙の負担で実施をすること。

- ・専任の担当者とし、短期（3ヶ月以内）の交代を行わないこと。
- ・清潔、不潔の概念を理解し、感染に関する知識を有すること。
- ・ガーゼカウント等手術室内の清掃に必要なルールに熟知していること。

なお、退出後すみやかな各オペ室内の床清掃ならびにゴミの片付けに対応できる人員数を配置すること。

（年間手術件数 9,115件/平成29年度実績）

4 注意事項

ガラス機器、電子機器、細かな物品等が多数あるので作業には十分な注意を払うこと。

照明器具清掃業務仕様書

1 作業日時等

- (1) 原則として8時30分から17時00分までとする。
- (2) 作業日程については、病院担当者と協議の上、作業開始日の14日前までに作業計画書を提出し、甲の承認を得ること。
- (3) 上記の作業日程については、病院の運営状況により変更することがあるので作業日の前日に確認すること。

2 実施内容

- (1) 実施箇所及び実施本数は別表及び別添図面のとおりとする。
- (2) 実施手順は下記のとおりとする。

照明器具清掃	適正洗剤を用いて管球、反射板、カバー等を拭く。汚れが落ちない場合は、更に適正洗剤で拭き取り、タオルで乾拭きする。
--------	--

3 実施回数及び時間

- (1) 実施回数

年1回

- (2) 実施時間

外来・検査部門で作業を実施する場合、病院業務に支障が生じないように、土日祝日又は夜間(18:00～翌5:00)に通行路の確保をしながら行うものとする。